

対応プリンター

顔料 インク

全色顔料インク搭載の家庭用インクジェットプリンター推奨。

顔料インクでの印刷に適した水転写式デカール作成用の用紙です。

染料 インク

染料インクは、用紙がインクを弾いて定着しないことがあります。

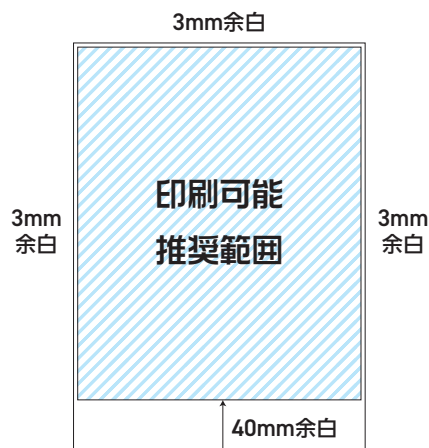
顔料インクに比べて解像感が落ち、耐候性の懸念のため推奨しません。

プリンターの設定

※純正インク使用時 室温 26℃
検証日 2023/8/7

EPSON PX-S505 (顔料 4 色機) で検証

- 用紙種類 • • 写真用紙
- 印刷品質 • • 品質優先 レベル 4
※MacOS の場合は、高精細を選択
※「写真」向けのメニューがあれば選択
- 印刷可能範囲 右図参照



注意

印刷時

- 光沢感がある側に印刷します。
- データ作成時に、CMYK の総量インクの使用総量が 300% を超えないようにします。
- 半乾きのままで印刷した用紙が重なると、印刷面が擦れることがあるので、1 枚印刷するごとに排紙トレイから紙を取り除きます。
- 印刷用データは、上部左右に 3mm の余白、下部に 40mm の余白（上図参考）が必要です。範囲外に印刷すると、用紙が機械に干渉して機械・用紙がインクで汚れることがあります。
- 紙が給紙されないときは、紙のロールを補正して使用します。
- 極端に気温が低い、または高い環境で使用しないでください。推奨 10℃～35℃。

印刷後

- 印刷面を保護するために、クリアコーティングが必須です。
- 印刷面を乾燥させた後に、模型用ラッカークリア塗料（GSI クレオス・スーパークリア III、ガイアノーツ・EX クリアなど）を薄く吹き付けます。
- エアブラシを使ったコーティングを推奨します。
- 缶スプレーでコーティングする場合は、一度に吹き付ける量を少なくして、5～6 回に分けて吹き付けてください。
- 用紙全体へ均一に吹き付けてください。

貼り付け時

- 貼付け時に有機溶剤入りの軟化剤や添加剤を使いたい場合、水で 1:1 程度に薄めて使用してください。原液のままでは過度に柔らかくなり、扱いにくくなります。
- 使用する柄の周囲をハサミなどで切り出します。水を含ませた布などの上に乗せて、台紙の裏面に水が染み込むまで待ちます。
- 台紙から分離したら（スライドできるようになったら）、貼り付けたい場所の近くに台紙ごと移動させて、台紙から柄をスライドさせて貼り付けます。
- 初期接着後、水で濡らした筆などで余分な水分を取り除きます。
- 乾燥後に貼り付け場所の周囲に残った糊の痕などを除去します。
- デカールの剥がれ防止のために、模型用ラッカークリア塗料などを塗装します。一度に多く吹き付けると溶けることがあるので注意します。
- 耐候性はインク自体の性能によります。直射日光や紫外線を避けてください。

2025/12/26 ©HIQPARTS



ブログでは写真入りで解説しています。
<https://hiqparts.info/inkj-decal>

HIQPARTS
FOR MODELERS BY MODELERS
MACHINING METAL PARTS WATER SLIDE DECAL PHOTO ETCHING PARTS SPECIALIZED TOOL